

平成28年度 伊那市立西春近南小学校評価表

学校関係者評価；（A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった） 自己（項目間相対を加味した到達度）評価（a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった）

学校教育目標	重点目標（中長期的目標）
	笑顔あふれる学校 気持ちのよいあいさつ
	今年度の重点目標
『恕』の心をもって 自己の生き方を拓く子どもの育成	(1) よく聴き、よく考え、進んで発表 (2) 学校中をあったか言葉でいっぱい (3) 明るい歌声、元気に遊ぶ

総合評価		
成果と課題	評価	改善策・向上策
(1) 皆の前で発表・発言など自己を表出することを苦手としている傾向が全体的にあるので、重点目標に掲げて3年目、昨年度より自己表出の力が向上しつつある。話す力は71%、聴く力は88%の児童がよくできたと振り返っている。	a A	○「聴く」ことは全ての学習の基礎であることを共通認識し、学級や全校で話す人の方を向いて聴く力を高める気風を大事にする。 ○学級内、全校、地域行事、郡の行事等、積極的に発表の機会を多く活用する。
(2) あったか言葉については校長講話や掲示物、学級指導で心に届く指導を心掛けた。特に改善させたい友だちの呼び方は、学級での話し合いや指導により、変化の兆しも見られる。80%の児童がよくできたと自己評価しているが意識に個人差が大きく周りの影響を受けやすいと心配の声もある。	b B	○あったか言葉を掛けられた時の気持ちや、ちくちく言葉や名前の呼び捨てをされた時の気持ちを疑似体験などで考え合い、心に響く指導を工夫する。 ○学級指導、「道徳」授業の充実、児童会による呼びかけや実態調査を実施しながら、あたたかい言葉掛けが響く豊かな心の醸成を目指す。
(3) 毎朝、学級から「朝の歌」を月替わりで歌う声が響いた。合唱団がいくつかの発表の場に出演したり、4年生が郡音、6年生が中部音楽会に参加したりと歌声を全体に広められた。朝に休み時間に進んで外へ出て遊ぶ姿が見られた。体力をテーマに「学校保健委員会」で話し合うことができた。	b B	○朝の歌は今後も続けて、全校の歌声向上に繋げたい。外部で発表する機会には積極的に参加していく。体力、持久力を伸ばすためにどんな活動が考えられるか「学校保健委員会」で、職員、保護者有志、保健師で話し合った内容をもとに具体策を出し、実践していく。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育 課程		○二学期制・ドリルタイム・全校一斉読書・子どもと向き合う時間・はばたきタイムなどの教育課程の工夫	○二学期制・ドリルタイム・全校一斉読書・子どもと向き合う時間など教育課程の工夫を生かし、子どもの個性や能力を伸ばしたり子どもとの関わりを深めたりすることができたか。
		○児童の実態・意欲を考慮した教育課程の展開	○学校生活で、『恕』思いやりの心を育てたり、本物に触れ心を豊かにしたり、体力を向上したりする教育課程を展開することができたか。
	学習 指導	○指導要領に則した年間指導時数の確保	○指導要領に照らし合わせ各教科等の年間指導時数を確保し、指導時間の過不足がないように計画的に指導できたか。
		○基本的な学力向上のための授業改善	○1時間の主眼を明確にすることで、本時「つける力」を意識した授業づくりを行うとともに、まとめ（一般化）・みとどけのある授業を展開することができたか。 ○学習問題（学習課題）・まとめのカードを用いた板書に心がけ、授業の流れにめりはりのある場面を位置づけることができたか。
教育 活動	○発言する力の育成	○返事・発言・聞く姿勢などの授業のルールを確立するとともに、自分の考えを説明したり、友達のことを聞いて再度自分の考えを述べたりなど学年に応じた発言する力を付けることができたか。	
	生徒 指導	○児童理解に基づいた指導	○児童の気持ち・心情に寄り添った対応を心がけることができたか。 ○学校内をはじめ、家庭との連携が密にされているか。
		○学校目標に基づいた適応指導や人権感覚の育成	○学校生活全般から児童たちと共に考える適応指導ができたか。 ○「いのち」や「心」の醸成をはじめ、あいさつやマナーの意識向上を図る指導ができたか。
学 校 運 営	安全	○安全の確保	○具体的な場面（火災・地震・交通・廊下歩行・遊び）を想定して、安全指導を適時行うことができたか。
	地域 との 連携	○地域の素材・人材の活用	○地域の素材を生かした教材化や、保護者・地域の方々に協力していただいた活動、保育園や中学校と連携した活動を展開することができたか。
		○おたより・懇談会や参観日・地域との諸会合を通しての情報公開や学校理解	○学級便りなどの家庭通知により、学校の様子を積極的に知らせることができたか。 ○学校公開・授業参観等を通じ、学習指導について保護者・地域の方々に理解してもらえたか。
	研修	○研究・研修の工夫・改善	○自己課題に沿って日々の授業改善（ねらいの明確化・シートの使用等）に努めることができたか。 ○研究会・研修会を通して専門性の向上や自己の修養に励むことができたか。

成果と課題	評価	改善策・向上策
○二学期制については、子どもの学びを評価が2回であることや、3学期制の周辺校とのずれが生じていることなどから見直しを図りたい。毎日のドリルから読書をする日課は定着してきており、落ち着いて午後の学習に向かっている。	b B	○10月前期終了後に実施した保護者懇談会は、その1週間前から校内の会合等精選し準備を綿密にして臨めたが学期制見直しに伴い時期を12月に移す。「子どもと向き合う日」は定着してきているが、個々の面談から見えた情報を共有し児童の心身の様子等について職員間で連携して支援に努めたい。
○全校や学年行事、縦割り班で行うことを通じて、異年齢との関わり方や自分たちでどう行動したらいいか考えて動く力を伸ばすことができた。また、総合的な学習や生活科の学習等では、地域・保護者の協力を得て栽培したり本物に触れたりする活動を多く取り入れることができた。朝や業間、「体育」などで体力の向上に努めた。	b B	○1年を見通して計画を立てることで、行事や教科によってどのような知力・体力をつけていくかをよりはっきりさせ、縦割りの活動を積極的に取り入れる。 ○地域や社会で活躍する人や強く生きている人との交流を通して、『恕』の心を育み、自分の生き方について学ぶ機会を、総合的な学習や教科学習の中に位置づけていく。
○時数に偏りの出そうな教科について注意して進めるよう心がけ、どの学年も指導時数は確保できた。学習の定着が思うようにいかない児童に対して、個別に学習を行ったりITが入ったりするようにして支援し、効果が見られた。	a A	○教材研究を充実させることで児童の実態に合わせた時数配分を工夫するとともに、より個に合わせた指導計画を練り、授業を行っていく。 ○行事にかけける時間はさらに検討し、一人一人が学習内容を十分に理解できるよう授業時数に余裕を持たせたい。
○教科研究会や全体学年会を増やし、つける力の明確化や板書の仕方、追究の道筋などは、共通に重点目標として意識を持つことができたが、実際の授業では見とどけの時間が十分確保できないという課題があがっている。	b B	○職員が、まとめや見とどけを大事にすることを意識して授業を行っている。今後もお互いに授業や板書を見合うなどして学び合い、教師自身が自己課題をはっきりさせ授業改善に取り組んで行く。
○学習課題を意識し『本時やることは何か』が分かっていた授業に臨むために、「学習問題」や「まとめ」のカードを生かすことができた。○板書計画を事前に立て、学習課題を提示したり、模造紙に記録を残して暫く掲示したりすることにより、授業の流れやポイントが分かりやすい支援方法を工夫した。	b B	○児童の意識に沿って、書く・話し合う・体験するなど流れにめりはりのある授業を実践すると共に、ICTを積極的に取り入れた授業を工夫する。 ○ペア学習やグループ学習など積極的に取り入れ、児童間のコミュニケーションを活発にしアクティブラーニングを取り入れた授業を工夫していく。
○「南風っ子学びの基本」を掲示して2年目、発言する時のルールなどは向上しているものの個人差がある。また、聞く姿勢を含め授業中の姿勢についても、各自が意識して取り組める素地ができつつあるが体を向けて聞くという姿には到達していない。 ○自分の考えを述べたり書いたりする活動を授業で積極的に取り入れたり、生活科・理科の研究授業を通して自分の考えを述べる力を伸ばすことを研究したりした。	b A	○聴く時の態度を指導することはもとより、話し手として魅力ある話し方や内容について研究・指導していく。 ○学年に応じた発言力については授業だけでなく、あらゆる生活の場を機会ととらえ具体的な指導を入れていく。NIE2年目の研究・取組に力を入れ読解力を伸ばす。
○「子どもと向き合う日」「はばたきタイム」では、担任はもとより担任以外の教師も子どもと関わり合いをもち、職員会議や支援会議で児童の様子や気になる姿について職員全体で共通理解を図り翌日からの支援にすぐに繋いでいくことができた。	a A	○今後も家庭との連絡体制を密にし信頼関係を築いていきたい。また、支援や指導が後手にならないよう、個々の様子を的確に捉える目を養っていく。保育園や中学校とも連携して、良いスタンスで情報を共有して育ちを支援していきたい。
○子どもの状況を把握し、朝の会や帰りの会で学年に合わせた具体的に指導してきたが、マナーについては継続的な指導が必要である。意地悪やトラブルを発見し、いじめを許さない自浄作用のある学級・学校づくりを一丸となって取り組んできた。	b B	○場に応じた挨拶やマナーの向上については、挨拶の意義など考えさせ、場に応じた挨拶の仕方を指導していく。大人の行動が手本となるよう学校職員・家庭・地域の意識を高め、いじめは絶対に許さないという強い姿勢を持って指導にあたる。
○校内の避難方法は、概ね理解しているが、登下校時の避難等については家庭や地域と連携をとりながら備えていかなければならない。登下校道路はグリーンベルト・歩道の設置により整ってきている。1年生が黄色い安全帽子を被って登下校できた。	a A	○今後も引き渡し訓練を防災避難訓練に併せて行っていきたい。また、保育園や地域とも連携した避難方法・防災計画を考えていく。 ○子ども達の登下校路については引き続き地域や関係機関と連携をとっていく。
○総合的な学習では、縦割り班での全校小麦蒔き、5年生の米作り、学年ごとの野菜栽培など地域の方に協力していただきながら素材の教材化に取り組み食育に力を入れることができた。特別活動（クラブ・南小体験教室）には多くの地域の人材を活用し協力いただけた。 ○保育園との交流や中学校からの出前授業など地域の学校との連携も深まった。	a A	○学習ボランティアの方々との連絡会・学習会等をもち、教科学習や総合的な学習などに計画的に協力していただけるよう、お願いしていきたい。 ○南小体験教室、食育、クラブ活動など地域の方に協力をお願いしている行事に、保護者も参加していただけるよう呼びかけていきたい。
○アンケートでは「授業参観・学級懇談では子どものことが良く分かり、役立つ」「お便り・連絡帳等で学校の様子がよく分かる」という項目に保護者から高い評価を得ている。○運動会や音楽会など様々な行事において、地域の方々に参加・協力していただき、地域の中の学校として地域全体から支援していただけた。	a A	○2学期制から3学期制に戻すなど学校の体制について、職員で十分検証する中で、保護者アンケートを取り、PTA総会にて提案し理解を得たい。 ○学校全体の子ども達の様子を保護者や地域に発信していけるよう、児童の活躍が見える「学校便り」の内容の工夫を図る。
○たった一人の非違行為がもたらした地域、学校、児童への影響の大きさを思い知る1年であった。この教訓を生かし、二度と子どもを傷つけないという強い思いを職員で共有した。○非違行為防止や人権教育に関する職員研修に力を入れることは勿論、その他授業力向上等校外研修にも各自が求めて前向きに参加することができた。	b A	○非違行為根絶のためさらに声を掛け合ったり、研修会を持ったりする。○地域に出て地元の方に学ぶ、先輩から学力向上・学級作りを学ぶ、Q.Uの見方、人権教育等工夫した職員研修を年間計画に位置づけ・実施していく。 ○研修に参加した教師が伝達・報告する時間を週暦に位置付けお互いに学び合う。

